

中下流部課題27. (環境)

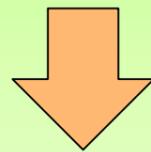
現 状

河口部では、河口を塞ぐように発達した砂州により、静水域が形成され、ヨシ原などの湿地植生が広がるとともに、塩生植物のシオクグ群落や海浜植生のコウボムギ群落が生育している。また、カモ類などの集団渡来地であることから鳥獣保護区に指定されている他、汽水性の魚類や甲殻類が多く確認されるなど、汽水域の特徴的な自然環境・景観を呈している。

説明項目

- ①河口付近の特徴
- ②鳥獣保護区

部会員からの意見

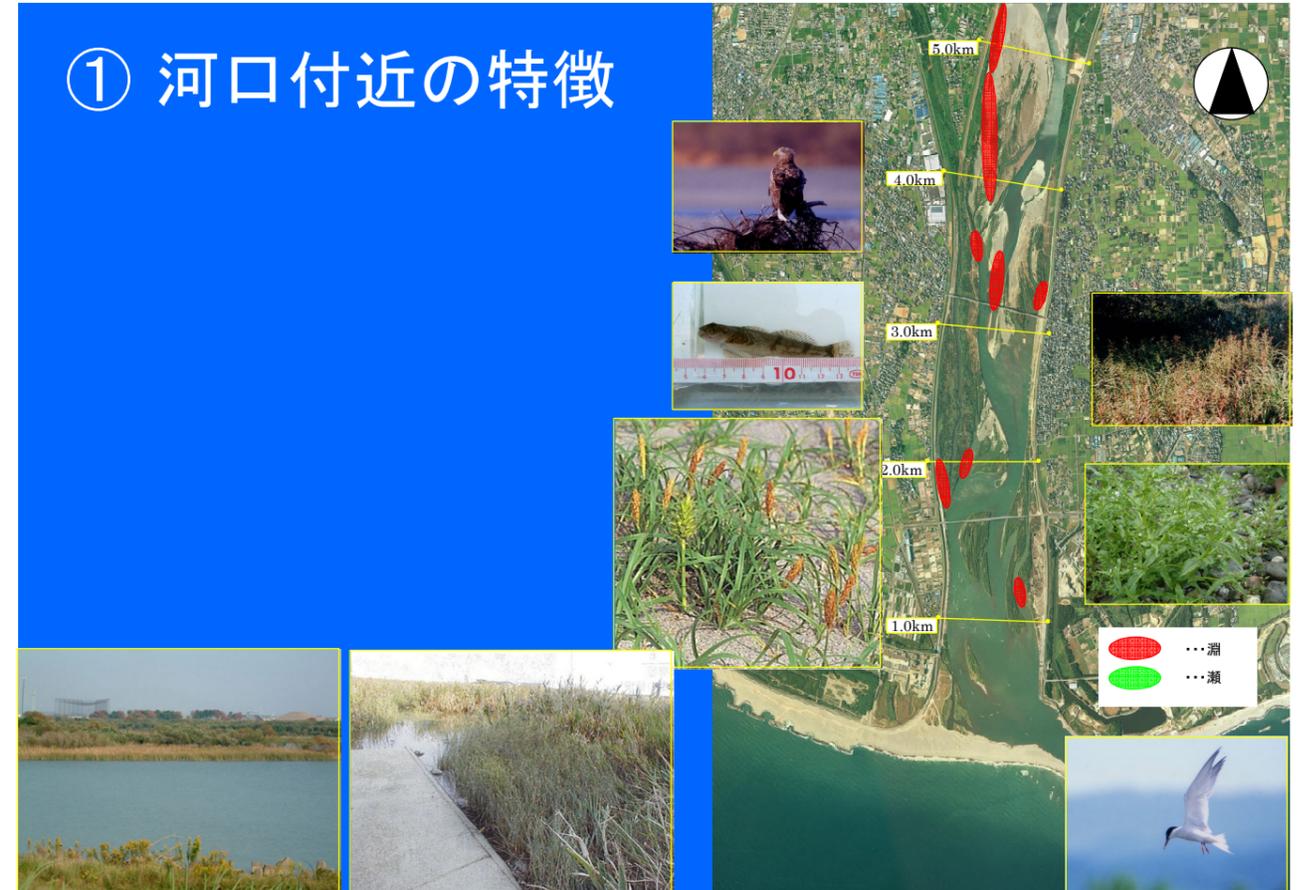


天竜川中下流部の課題

- ・下流部らしい自然環境・景観
- ・河口部らしい自然環境・景観
- ・河口部らしい自然環境・景観

中下流部課題27. (環境)

① 河口付近の特徴



② 鳥獣保護区

天竜川中・下流部では、4箇所が鳥獣保護区に指定されている

図番:名称	設定区分	面積(ha)
①東海自然歩道竜山鳥獣保護区	森林鳥獣生息地	659
②船明ダム湖鳥獣保護区	集団渡来地	272
③二俣小学校鳥獣保護区	集団渡来地	24
④天竜川以西遠州灘鳥獣保護区	集団渡来地	3,219

出典: 静岡県資料

中下流部課題28. (環境)

現 状

侵食・洗掘対策として整備されてきた水制・護岸・根固などにより淵が埋まることもあり、魚介類の生息環境に影響している。

また、河積確保のための州の掘削、樹木群の伐採は、貴重種などの生息・生育環境に影響を生じる恐れがある。

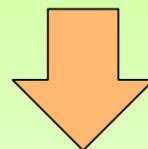
説明項目

- ①瀬と淵の変化
- ②樹林の伐採
- ③水制付近における土砂堆積

部会員からの意見

(板井) 澗筋の固定化は、治水上は問題であるが、川の生物にとっては生息しやすくなるため、むしろ望ましい。対策を講じるときには、河畔林があるようなところでは、崩れてもいいような対策を講じた上で、水をあてて蛇行点が固定するような形にする方が、水生生物にとってはいい環境が維持できる。

(板井) 河川の生態学的な観点からは、中下流部では瀬と淵は蛇行点に一個ずつあるのがふさわしい。



天竜川中下流部の課題

- ・下流部らしい自然環境・景観
- ・治水対策の影響
- ・治水対策の影響

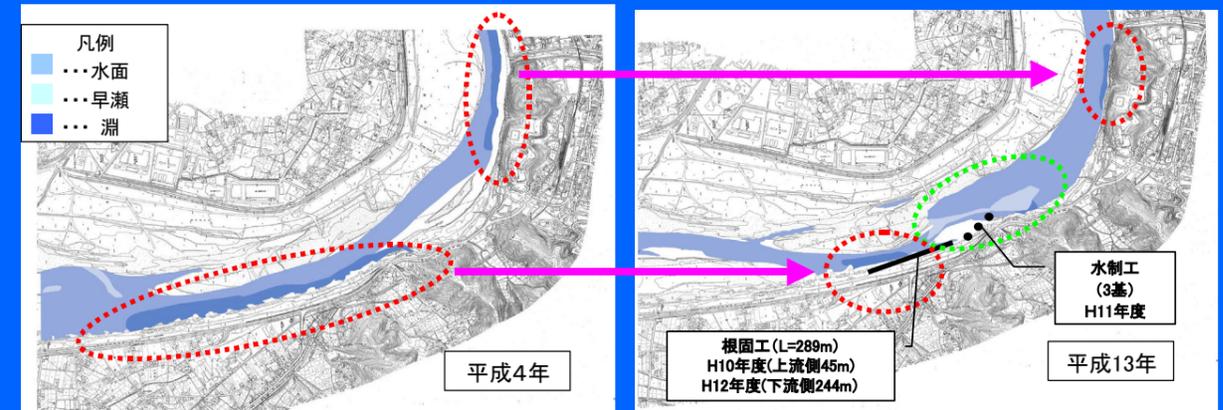
中下流部課題28. (環境)

① 瀬と淵の変化

○瀬と淵の数は、平成4年と平成13年で比較すると、いずれも増加している

	平成4年	平成13年
早瀬	49	66
淵	30	39

○野部地区周辺の瀬淵は、淵が縮小し、早瀬が新たに形成されている



野部地区 (22~24km) における瀬と淵の変化

② 樹林の伐採

河川管理者が、ヤナギ等樹林が繁茂し、洪水の流下を阻害する箇所を、災害防止の観点から河川環境の保全に配慮しつつ、伐採を行っています。



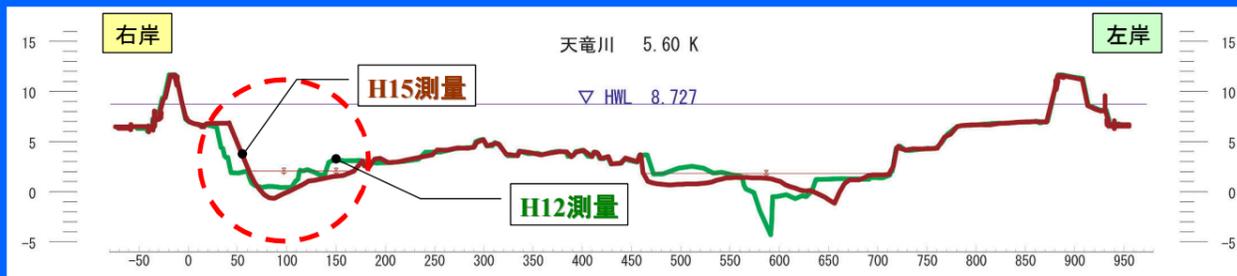
樹林伐採前 H9.6撮影

樹林伐採後 H14.6撮影

③ 水制付近における土砂堆積



水制付近の土砂堆積状況(河口から5.0km付近右岸)



横断形状の比較(5.6km右岸)